

● 読書感想文コンクール 小学校低学年の部 ●

東京八王子西ロータリークラブ

会長賞

廣川 祝子 (ひろかわ のりこ) 山田小 3年生

作品名：「アリス・イン・ワンダーランド」を読んで

図 書：アリス・イン・ワンダーランド

アリスは、「ジャバウォッキーとたたかいなさい。」と言われます。「出来ないわ。」と答えました。そうそう、わたしにも出来ない。と思いました。物語が進むと、アリスはたたかわなければならない事に気がつきました。わがままな赤の女王とのたたかい。つまり、自分のわがままとたかうんです。家来のかい物は、ジャバウォッキーです。わたしもわがまと、たたかわなくてはならない事に気がつきました。「めんどくさい」の「なまけ心」は強てきです。わたしはこわくて、にげ出したくなります。

わたしはりく上クラブに入っています。一生けん命練習しなくちゃいけないけど、「さぼりたいな。」というジャバウォッキーが、すぐ後ろから来ます。アリスは、「ボーパルのつるぎ」でかい物をたおします。「ボーパルのつるぎ」って何だろう。「ゆう気」だなと思いました。でも、ゆう気だけではさぼってしまいそうです。だから、練習するんだという気持ちを、一生けん命出さなければなりません。この気持ちが、わたしの「ボーパルのつるぎ」です。

アリスはジャバウォッキーに勝って、ゆう気のある人になります。アリスに「自分で決めた事を、やりつづけるゆう気」を持っていましたか、と聞かれているようです。わたしは出来るかどうか心配だけど、ゆう気を持ちつづけて、ジャバウォッキーに勝っていきたいと思っています。こんな事を書くと、はずかしくなって、知らんぷりしたくなりましたが、ゆう気を出して書きました。

アリス・イン・ワンダーランドは、出て来る動物や人物がとてもキラキラしていて、わくわくしながら読んでいます。楽しくて、つい「なまけ心」に負けてしまいそうになります。でも、負けない。